

(火曜日)

観光振興のはじまり

桜

Sakura

Yokoso! JAPAN

「魅力ある
日本のおみやげコンテスト」
受賞商品取扱店

The Best Japanese Souvenir Contest
Shop that sells won souvenir

富有魅力的の日本の土特产竞赛
获奖商品对待店

매력 넘치는 일본의 선물 콘테스트
수상상품 취급매장

佐々木一成 (2008). 観光振興と魅力あるまちづくりー地域ツーリズムの展望. 学芸出版社 2008年. 14~28.

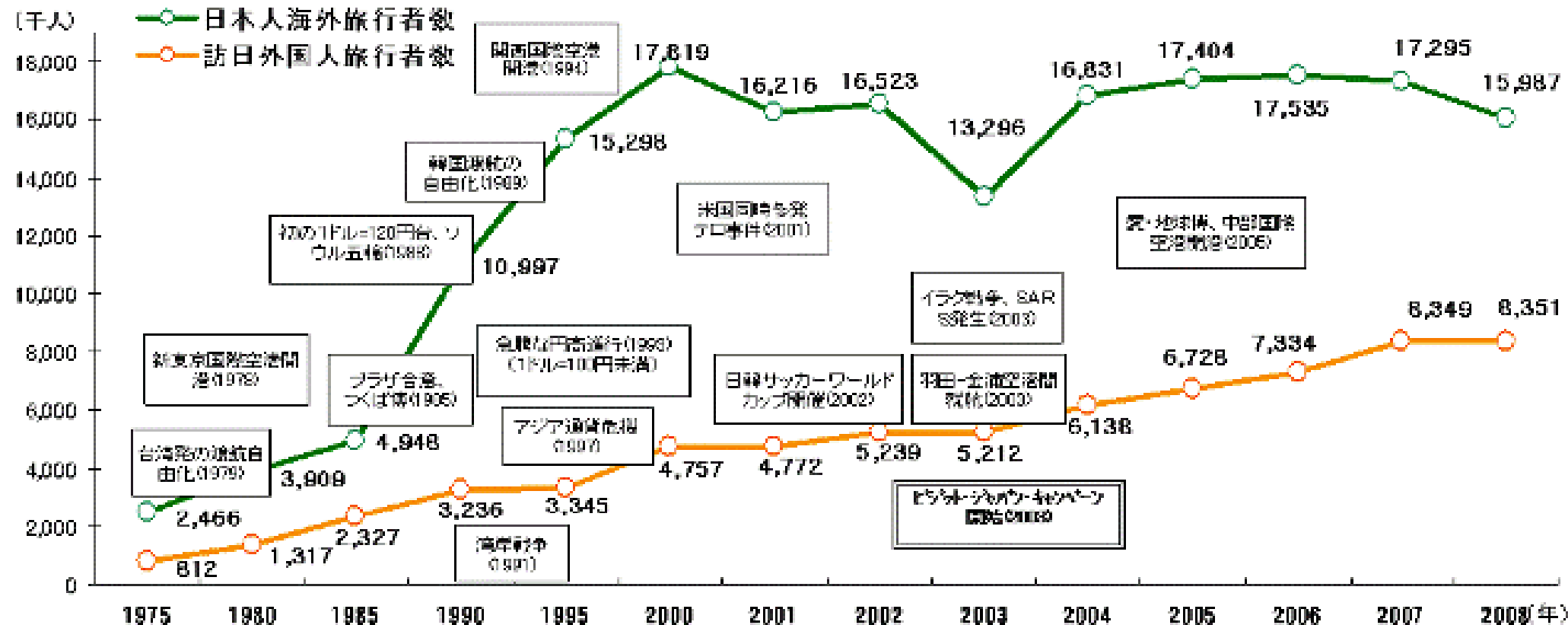
- ちんすこう
- 浅茅 雷おこし
- 伊豆土産 波に咲く花
- 文明堂 カステラ
- 福井 羽二重餅 織福
- 鹿兒島 茅吉餅
- 福井 くるみ羽二重
- 北海道 きのこ
- 北海道 名水く
- 滋賀琵琶湖 薄皮餅
- 山梨 桔梗信
- 山梨 桔梗
- 埼玉 単合せ

1. 観光振興への取り組み

- **2000年10月** 経済団体連合会(日本) 「二十一世紀のわが国の観光の在り方に関する提言」
- **2002年2月** 小泉総理観光振興に言及、国会施政方針演説において(歴代総理初)海外からの旅行者(in)の増大と、これを通じた地域の活性化を謳った。
- **2003年1月** 小泉総理「訪日外国人旅行者倍増(人)計画(目標年次2010年)」
- **2003年4月** 観光立国相談会の報告書「住んで良し訪れて良しの国づくり」が公表された。
- **2004年11月** 観光立国推進戦略会議報告書「国際協力のある観光立国の推進」の公表。
- **2005年6月** 「国際観光立国に関する提言」を公表。(経団連)
- **2007年1月** 「観光立国基本法」(1963年の観光基本法を改正)
 - ①活力に満ちた地域社会実現
 - ②国際相互理解の促進
 - ③国民観光の促進
 - ④国・地方公共団体・事業者・住民による相互連携。
 - わが国初の「立 」がつく法律
- **2007年6月** 「観光立国推進基本計画」5年間の計画期間
- **2007年6月** 観光立国相談会の報告書「地域が輝く『美しい国日本』の観光立国戦略」
- **2008年** VISIT Japan Campaign (ようこそJAPAN)

2.低い日本の国際観光競争力

訪日外国人旅行者数及び日本人海外旅行者数の推移



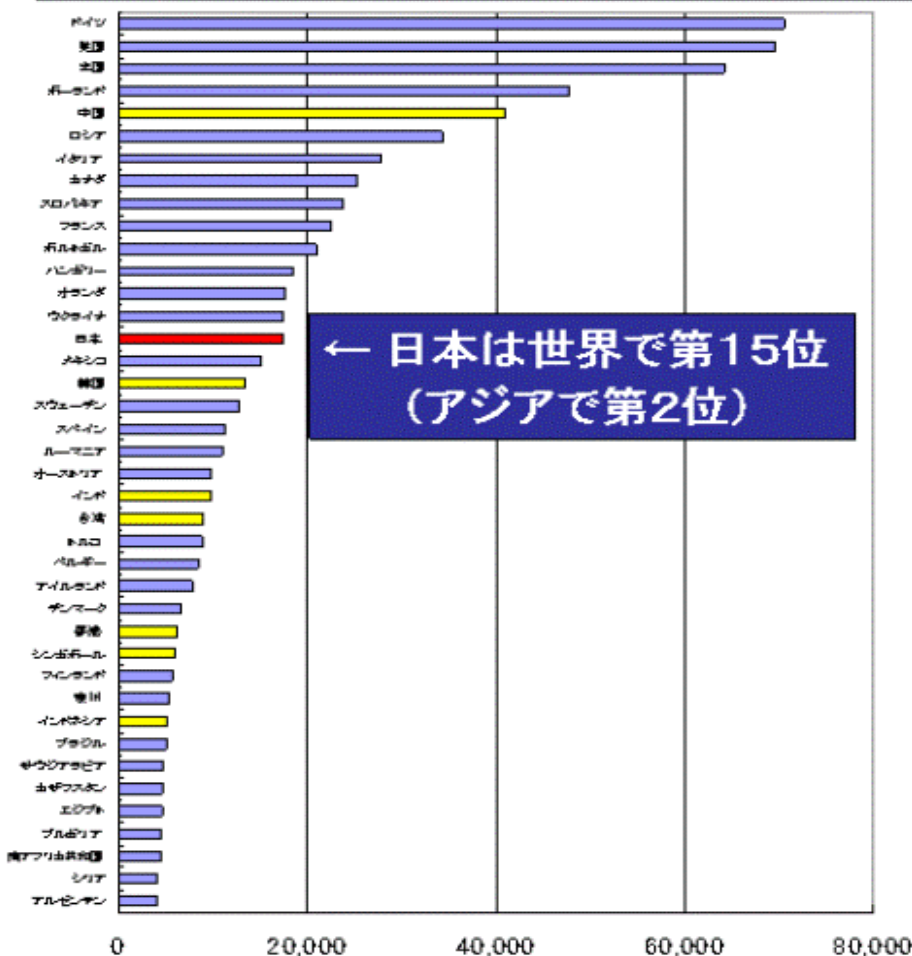
資料：送務省資料に基づき国土交通省作成資料による

2.低い日本の国際観光競争力

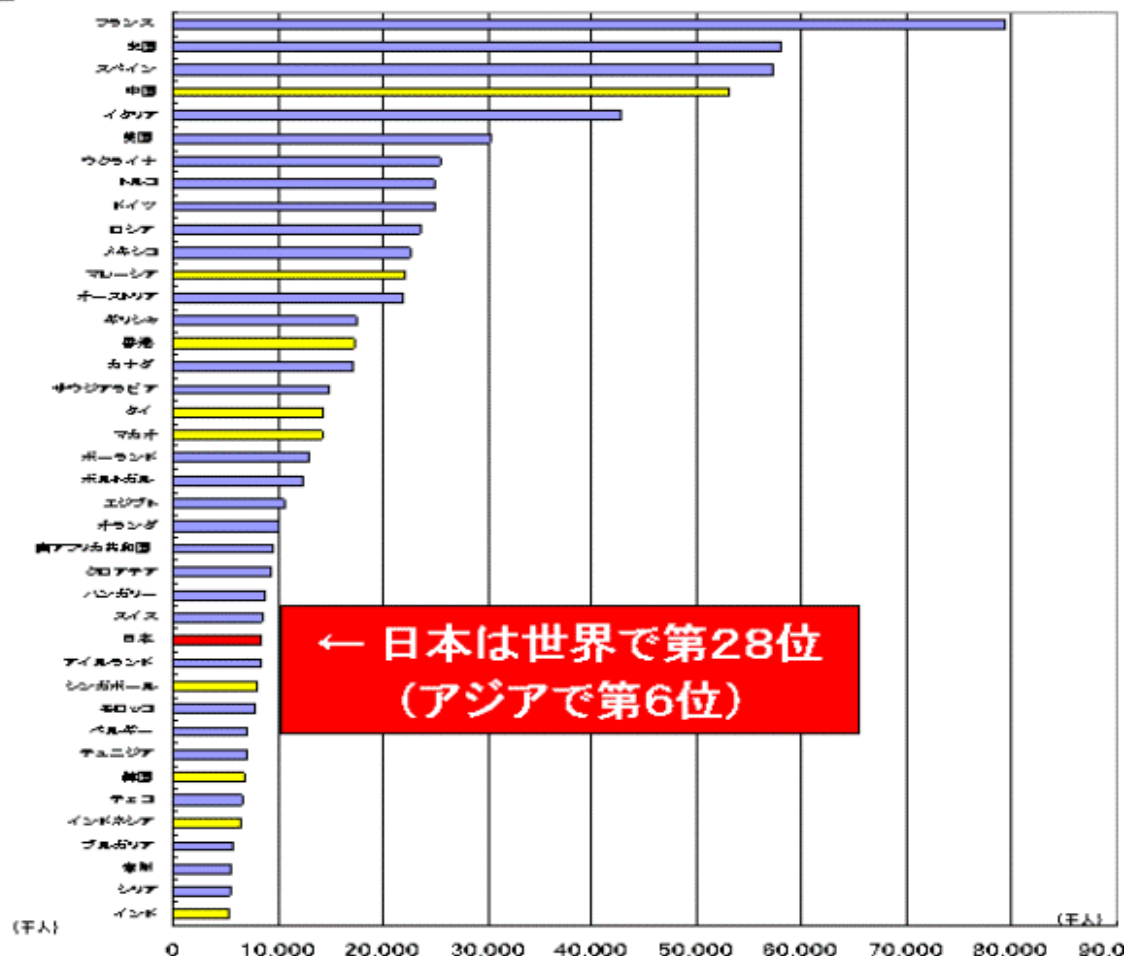
主要国における出入国旅行者数国際ランキング

我が国は出国旅行者数(アウトバウンド)に比べて入国旅行者数(インバウンド)が少ない

出国旅行者数国際ランキング(2007年)
(アウトバウンド)



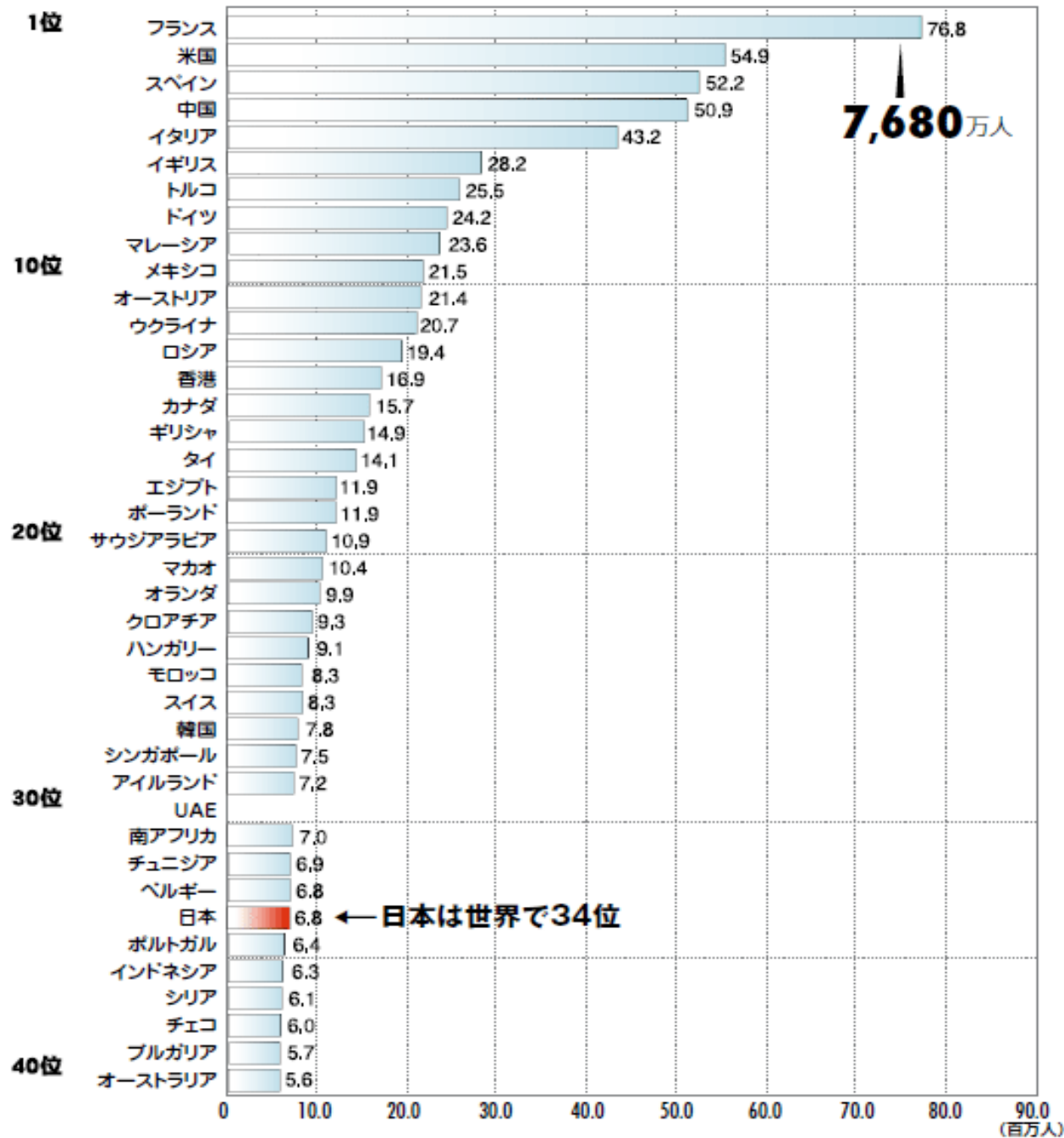
外国人旅行者受入数国際ランキング(2008年)
(インバウンド)



※エジプトについては、2006年の数字を掲載。

出典:日本政府観光局(JNTO) 日本の国際観光統計(2008年)

※ギリシャ、ポルトガル、エジプト、アイルランド、シンガポールについては、2007年の数字を掲載。

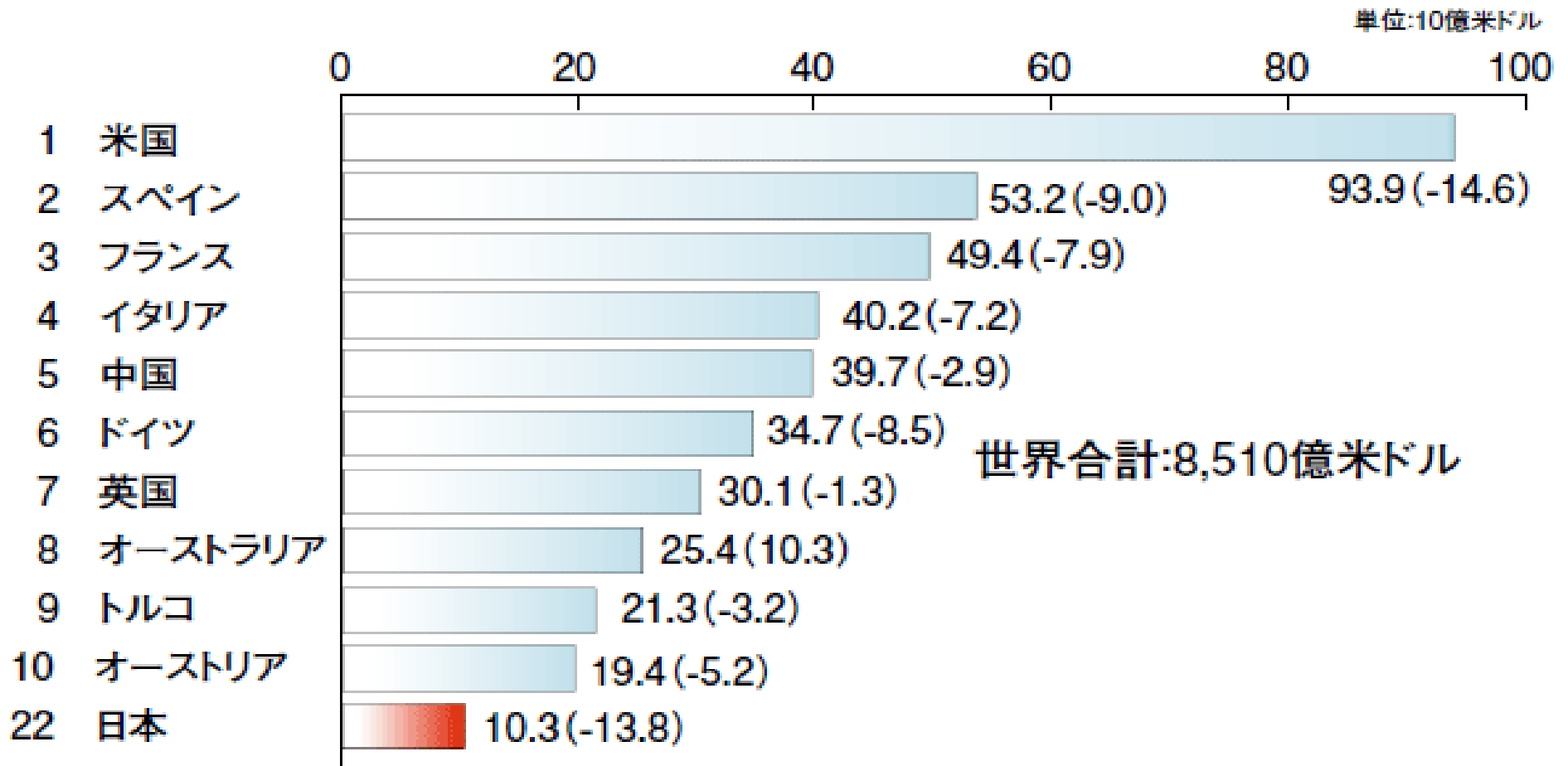


2.低い日本の 国際観光競争力

2011年度 インバウンド

2. 低い日本の国際観光競争力

観光収入上位国



観光振興 4つの背景

- **大交流時代の到来**

外国人旅行者受け入れ数(8億628万人・2005年統計・前年比5%増)(WTO)統計。中国などのアジア諸国が一大送り出し国。

- **地方分権化での地域経済の再生と活性化**

今までの地域振興策は公共事業や工場誘致によって地域の経済を活性化し、雇用確保すること(人口の維持・増加策に着目した地域振興策)。

しかし、政府の財政難から来る公共事業の疲弊や人口減少・高齢化を考えると定住人口だけでなく 人口の拡大に、真剣に、とり組む必要がある。

- **国内旅行の低迷**

- バブル経済崩壊後の 所得減少や将来不安による個人消費の抑制
- 相対的に割安な海外旅行へのシフト
- 団体旅行からグループ旅行へ

- **観光の経済の 効果**

観光は極めて裾野の広い産業。地域活性化効果。

観光振興4つの背景

①大交流時代の到来

①アジアの一大マーケット化（WTO）

➤ 世界の観光市場－外国人旅行者受け入れ数

- 1960 69,320,000 (6,932万人)
- 2005 806,280,000 (8億628万人)
- 2010 1,006,400,000
- 2020 1,561,100,000



➤ アジア・太平洋地域の外国人旅行者受け入れ数

- 2005 155,430,000 (1億5,543万人)
- 2010 205,800,000
- 2020 416,000,000

観光振興4つの背景

①大交流時代の到来



高まる中国人の海外旅行熱

年	中国の海外旅行者数	伸び率 (%)	うち香港・マカオ
1997 (解放時)	8,180,000		
2001	12,130,000	15.9	5,530,000
2002	16,600,000	36.8	8,280,000
2003	20,220,000	21.8	9,900,000
2004	28,850,000	42.7	14,440,000
2005	31,030,000	7.5	14,910,000



訪日旅行者数の推移

1,000万人は上海
や香港からの富
裕層



	2002	2003	2004	2005	2006	2010
訪日旅行者数(万人)	45.2	44.9	61.6	65.3	81.2	?
構成比(%)	8.6	8.6	10.0	9.7	11.1	

観光振興4つの背景

①大交流時代の到来

最大の誘客ターゲットは東アジア

- 国別訪日外国人旅行者数 (国土交通省『観光白書』2006年版)

順位	国・地域	訪日旅行者数(万人)	構成比(%)
1	韓国	212	28.9
2	台湾	131	17.8
3	アメリカ	82	11.1
4	中国	81	11.1
5	香港	35	4.0
6	イギリス	22	3.0
7	オーストラリア	20	2.7
8	カナダ	16	2.1
9	タイ	13	1.7
10	フランス	12	1.6
合計	(その他を含む)	733	100.0

2005
中国人向ビザ発
行地域の拡大

2006年
韓国人向け短期
滞在ビザの免除
措置

2007年
アジア・ゲートウェ
イ構想
羽田空港

東アジア地
域で62.6%
アジア全体
で71.5%

観光振興4つの背景

②地域経済の再生と活性化

- 全国画一型から
地域資源活用型へ
- ハコもの観光施設や
リゾートマンションの建設ラッシュ
 - 1962年 新産業都市建設促進法
– 15地域
 - 1983年 テクノポリス法
(高度技術工業集積地域開発促進法) 26地域
 - 1987年 リゾート法
(総合保養地域整備法)
42の基本構想
- 2000年 地方分権一括法施行
- 小泉内閣時代の税財政改革
「三位一体の改革」
 - 国庫補助負担金の削減
 - 税源の移譲
 - 地方交付税の見直し
- 2006年 地方分権改革推進法
- 地域の特色を作り出すような新興手法への転換
- 固有の自然や歴史・文化、産業等を活かした地域資源活用型の地域振興

多様性

個性

観光振興4つの背景

②地域経済の再生と活性化

地域を襲う人口減・高齢化と財政難

年	総人口(人)	高齢人口比率 (%) (65歳以上)
2005	1億2,777万	20.2
2013	1億2,625万	25.2
2050	9,515万	39.6
2055	8.993万	40.5



表6 (出典:国立社会保障・人口問題研究所が発表した「日本の将来推計人口」による)

日本の人口が減少基調に転じることにより、特に地方において、過疎化と高齢化が一層加速する恐れが強い。

3. 観光振興4つの背景

② 地域経済の再生と活性化

政府・自治体の財政難

表8 国及び地方の長期債務残高（単位：兆円）

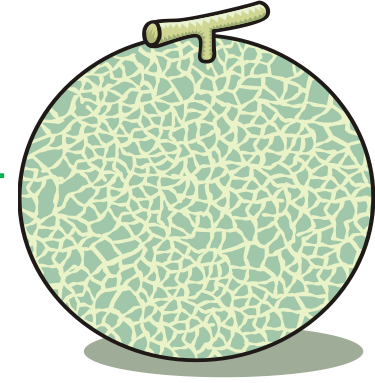
	1995年末 (実績)	2005年末 (実績)	2006年末 (補正後)	2007年末 (予算)
国	297程度	590程度	600程度	607程度
地方	125程度	201程度	201程度	199程度
国と地方の重複分	△12程度	△34程度	△34程度	△33程度
国・地方合計	410程度	758程度	767程度	773程度
対GDP比	82.6%	150.6%	150.2%	148.1%

表6（出典：財務省ホームページ「日本の財政を考える」）

観光振興4つの背景

② 地域経済の再生と活性化

地域を襲う人口減・高齢化と財政難—財政破たんした夕張市



- 人口**1万2千人**
- 2007年3月 632億円の負債を抱え**財政再建団体**に指定された（国の管理のもと18年間で再生する計画）。
- 1980年「炭鉱から観光へ」
 - 石炭業で栄えた町（人口・・・1960年**11万7千人**）
 - 国の政策転換で60年代、炭鉱が次々と閉鎖された
 - 『炭鉱から観光へ』
 - 「**夕張メロン**」のブランド化
 - **ゆうばり国際ファンタスティック映画祭**
 - **30施設に及ぶハコもの施設**
（石炭博物館・夕張鹿鳴館・メロン城・レースイスキー場）
→ **赤字負担が市の財政悪化に。**

ハコモノ過剰
投資型



	1991年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
観光客数(万人)	231	160	152	147	116

表9 夕張市の観光客数推移

本日の課題

- 第1章から4章までを読んで、800字程度でまとめと感想を書いてください。
 - 課題を10月21日(日曜日 11:59pm)までにメールで提出。
 - 大学のウェブメールを使用して送る。
 - 送り先アドレスは kaorukom@eve.u-ryukyu.ac.jp
 - 本日の課題の件名は、「2012 まちづくり(1章～4章)」

3. 観光振興4つの背景 地域経済の再生と活性化

個性溢れる魅力創出こそが地域自立化の鍵

地域経済の構造転換

- 中央依存型経済 → 地域自立型経済へ
- 「人口＝定住人口」 → 「人口＝定住人口＋交流人口」
- 交流人口増を梃子に域際収支や国際収支を改善。地域や国の活性化を図る。
- それぞれの地域の「個性」や、「持ち味」を、いかに作り出すか？



4. 回復が待たれる国内旅行

1. 低迷する国内旅行

表10 宿泊観光旅行(国内)の実態調査

出典: 日本観光協会 「観光の実態と志向(第25回)2006年12月

年度	参加率 (%)	参加回数 (回)	平均宿泊数	1回あたり総費用(円)
2002	52.2	1.25	1.56	39,200
2003	52.5	1.17	1.56	40,840
2004	48.4	1.03	1.54	39,780
2005	49.2	1.08	1.60	39,160
過去のピーク	60.2 (1994年)	1.43 (1994年)	2.20 (1970年)	48,100 (1990年)

- アメリカ 年間11.7泊(3.4回x3.5泊) (2005)
- イギリス 17.6泊 (2.8回x6.4泊) (2005)

- 一回あたり総費用
- 3万9160円(2005)
- 4万8100円(1990)

原因

- 長期不況による可処分所得の減少
- 将来不安による個人消費の抑制

観光振興4つの背景

④ 回復が待たれる国内旅行 変わる顧客ニーズにいかに対応するか？

供給サイド

- 「団体旅行」



「家族・小グループ旅行」

- 有名観光地や温泉などを訪れる**周遊型・物見遊山型**の団体旅行



明確な目的をもった新しいタイプの旅行(体験型・滞在型・学習型)

「目的型旅行」

- 秘湯めぐり
- フィルムツアー(ロケ地)
- エコツアー(ガイド・Interpretation)
- トレッキング



需要サイド

- 労働者一人平均の有給休暇付与日数 17.9日
- 有給休暇取得数 8.4日(47.1%)
2006年...過去最低
- 理由
 - 休暇の連続性のなさ
 - 盆・暮れ・ゴールデンウィーク等への極端な集中
 - 連続して休めない・家族と一緒に休めない

3. 観光振興4つの背景

④. 回復が待たれる国内旅行 国内旅行回復が観光振興の鍵

• 国内観光消費額 24兆4千億円

- 国民による**国内旅行** 22兆8千億円 (93.3%)
- 外国人旅行者による**国内旅行** 1兆6千億円 (6.7%)
 - 外国における自国民の旅行比率
 - » カナダ 30%
 - » イギリス 18.1%
 - » ドイツ 17%
 - » アメリカ 15.4%



- 国民による**海外旅行** 5兆1千億円

観光振興4つの背景

⑤ 旅行消費が我が国にもたらす経済波及効果

売上高－原材料等

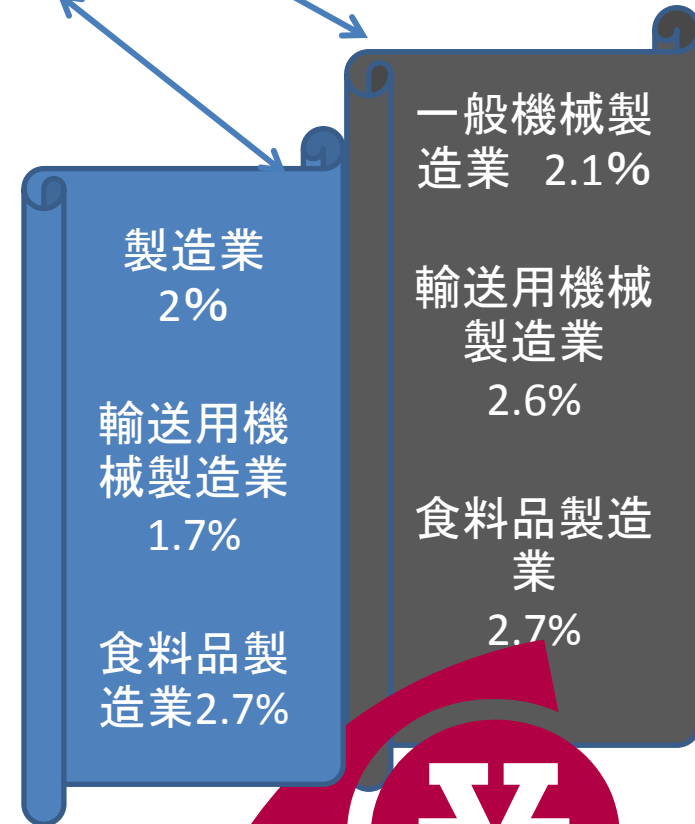
◆ 観光消費額 24.4兆円 (GDPの約6%)

◆ 付加価値 12.3兆円 (GDP503兆円の2.4%)

◆ 直接の雇用効果 229万人 (全雇用の3.6%)

◆ 税収 2.0兆円 (全税収の2.2%)

□ 生産波及効果	55.3兆円*1	5.8%
□ 付加価値効果	29.7兆円*2	5.9%
□ 雇用効果	469万人*3	7.3%
□ 税収効果	5兆円*4	



*1 : 産業連関表国内生産額 949.1兆円に対応 (2000年)

*2 : 国民経済計算における名目GDP 509.8兆円に対応 (2006年度)

*3 : 国民経済計算における就業者数 6,404万人に対応 (2005年度)

*4 : 国税+地方税89.0兆円に対応 (2006年度)

*5 : ここで言う貢献度とは全産業に占める比率

旅行消費額 23.5兆円 (国内産業への直接効果 22.9兆円)
波及効果



国別国際会議件数

国名	2003年 順位	開催件数	2004年 順位	開催件数	2005年 順位	開催件数
アメリカ	(1)	1,241	(1)	1,207	(1)	1,039
フランス	(2)	723	(2)	606	(2)	590
ドイツ	(3)	535	(3)	538	(3)	410
イギリス	(5)	482	(4)	424	(4)	386
イタリア	(4)	512	(5)	400	(5)	382
中国*	(20)	135	(11)	249	(11)	216
韓国	(32)	87	(17)	165	(14)	185
シンガポール	(22)	125	(20)	156	(15)	177
日本	(12)	247	(14)	221	(17)	168

総数
8,953件

中国の躍進（2004年は第20位から第11位へ）

- ①外資系進出企業の増加
- ②魅力ある観光資源の多さ（35の世界遺産・五輪（2008）・上海万博（2010））
- ③宿泊費をはじめとする開催費用の低廉さ

*香港・マカオを含む
（出典：国際観光振興機構『国際観光白書』2007年）

都市別・国際会議開催件数

総数
8,950万件

都市名	2003年 順位	開催件数	2004年 順位	開催件数	2005年 順位	開催件数
パリ	(1)	303	(1)	245	(1)	294
ウィーン	(4)	199	(3)	224	(2)	245
ブリュッセル	(2)	225	(2)	226	(3)	189
シンガポール	(8)	125	(5)	156	(4)	177
バルセロナ	(7)	133	(6)	147	(5)	162
ソウル	(28)	54	(11)	108	(9)	103
北京	(37)	44	(15)	94	(18)	82
東京	(28)	54	(33)	49	(25)	56

出典：国際観光振興機構「国際観光白書」 2007年版

(表3) 主要国の留学生受入れ状況

国名	留学生受け入れ数 (万人)	留学生比率(%)
アメリカ	56.6	5.5
イギリス	35.6	24.9
ドイツ	24.8	12.3
フランス	26.5	11.9
オーストラリア	22.9	24.2
日本	11.8	3.3

留学生総数
270万人

(出典: 文部科学省 「我が国の留学生制度の概要」 2007年度版)

第3章 日本は魅力的か

2. 留学生受け入れ数

表3 主要国の留学生受け入れ状況

国名	留学生受け入れ数(万人)	留学生比率 (%)
アメリカ	56.5	5.5
イギリス	35.6	24.9
ドイツ	24.8	12.3
フランス	26.5	11.9
オーストラリア	22.9	24.2
日本	11.8	3.3

表5 日本への国別留学生数

順位	国名	留学生数	構成比 (%)
1	中国	74,292	63.0
2	韓国	15,974	13.5
3	台湾	4,211	3.6
4	マレーシア	2,156	1.8
5	ベトナム	2,119	1.8
6	アメリカ	1,790	1.5
7	タイ	1,734	1.3
8	インドネシア	1,553	1.3
9	バングラデッシュ	1,456	1.2
10	スリランカ	1,143	1.0
	合計	117,927	

表4 日本の留学生受け入れ数推移

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
留学生数 (万人)	9.6	11.0	11.7	12.2	11.8

必要なソフトパワーの強化

1. ソフトパワーとは何か？

ジョセフ・ナイ教授(1980年代)

ハードパワー・・・経済力や軍事力。相手に影響力を及ぼす伝統的な国力。

ソフトパワー・・・自らの魅力によって相手を取りこんでしまう新しい国力。

2. ライバルは世界の観光地

1. 世界遺産
2. 世界無形文化遺産
3. 素材のままの観光資源



3. 観光客が望む日常の生活文化体験

ホテル・レストラン・原宿や竹下通り・浅草や電気街・アニメなどの秋葉原・食の築地市場



観光振興の本質は魅力づくり

- 観光振興の提言や取り組み(政策課題)の共通点
 - 外国人旅行者の訪日促進
 - 魅力あるまちづくり、地域づくり
 - 自然環境や歴史・文化遺産の保全・保護
- しかし、観光振興の視点からいえば、外国人旅行者誘致は、あくまで観光振興のための1つの手段であり、目的ではない。
- 停滞気味な観光市場の原因をとらえ、対策を実施すること。そのうえで日本の各地域が持てる、地域資源を存分に活用し、それぞれの個性や魅力を創出していくこと。これにより、日本が全体として多様性ある重層的な魅力を持つ国になっていく。
- そのような個性や魅力が備われば、国内外を問わず、旅行者や数多くやってくる。逆にそのような魅力に乏しければ、いかに誘致活動を繰り返しても、訪れる旅行者は課散られるだろう。また、仮に一度はその地を訪れたとしても、決してリピーターとはならないだろう。

グループ課題



観光振興の本質は魅力づくり

国際化の進展で、国内外を問わず、ボーダーレス化が進んでいる。このため、日本国内の観光地は、今や海外の一流観光地などと正面から競合する時代を迎えている。

教科書(第4章 必要なソフトパワーの強化)を読んで話し合ってください。

- ①競合していると思われる日本の観光地と外国の観光地。
- ②この2つの観光地がどのように競合しているか？それぞれの観光地の特徴と違いを述べて説明する。
- ③この2つのうちで、日本の観光地をもっと魅力的にするにはどうしたらよいか